

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	Webプランニング論(Web Planning)		授業コード	P100351
担当教員名			科目ナンバリングコード	P21003
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	基本的なWindows PCの操作(ソフトウェア起動終了、日本語入力、ファイル処理等)と学内LANの利用(Webからの情報収集、メール等)ができることです。			
受講心得	課題提出を重視します。毎回ステップアップ型で授業を進めますので、出席を欠かさないでください。 評価演習と中間試験・期末試験は必須です			
教科書	必要に応じて教員が資料を作成し配布します。			
参考文献及び指定図書	ユーザ中心ウェブビジネス戦略 株式会社ビービット 武井・三木著 SoftBank Creative 人を賢くする道具 D.A. ノーマン(著) 新曜社 ヒューメインインタフェース ジェフ ラスキン(著) ピアソンエデュケーション MIND HACKS Tom Stafford, Matt Webb 著 オライリージャパン			
関連科目	Webデザイン、コンテンツ企画論、デジタルコンテンツ論、Webシステム構築			

授業の目的	本科目は、eコマースサイトの設計、運用、保守の各開発工程を計画する際に必要となる基礎的な知識及び戦略の習得を目的とします。今日、Webを活用したビジネスの急激な増加しており、最適なプランニングが行える人材が求められています。具体的には、コストマネジメント、リスクマネジメント、eビジネスの設計・運用・保守に関する計画手法、eコマースサイトデザイン、開発プロセス等です。これらの学習を演習形式で行い、Webサイト構築に向けたマーケティング、プランニング、デザインに関する基礎的な知識と技術を習得します。
授業の概要	Webを設計・設置・運営するために必要な知識の学習を、座学と演習から学習します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：ユーザ中心思考の背景とネットユーザ行動特性</b> Webと利用者の関係、そして利用者がWebに訪問した際に行なう行動について解説を行ないます。	提出課題
<b>第2週：認知科学概論</b> Webサイトに訪問した利用者が受ける感覚的な側面は、Webの設計において非常に重要な要素です。ここでは、人間の認知的な側面の概論について解説を行ないます。	提出課題
<b>第3週：ヒューマンインタフェース概論</b> Webサイトに訪れた利用者は、Webサイトを閲覧すると共に操作を行ないます。ここでは、Webサイトと人間との対話について、ヒューマンインタフェースとしての側面の概論について解説を行ないます。	提出課題
<b>第4週：ユーザ中心設計手法とは</b> Webサイト設計においては、ユーザの利用者としての視点を考慮したデザインが重要な要素となります。ここでは、ユーザを中心においた、Webデザインにおける設計手法について解説を行ないます。	提出課題
<b>第5週：ユーザ中心設計を進めるツール</b> ユーザを中心においたWebデザインで用いるツールについて、解説を行ないます。また、ユーザビリティの評価において用いられる手法等についても解説を行ないます。	提出課題
<b>第6週：前半の復習とまとめ</b>	

本授業の前半部分の復習に取り組みます		提出課題
<b>第7週：サイト戦略の立案</b> Webサイトの設計において、設置側と利用者側の目的の分析が非常に重要な要素となります。ここでは、サイト設計から運用までのプロセスにおける第一段階の立案について、解説を行ないます。		提出課題
<b>第8週：サイト戦略の検証</b> サイト戦略を立案した後、それらが、利用者側から見た場合についての視点での評価、検討の手法について解説を行ないます。		提出課題
<b>第9週：サイト基本導線設計と検証</b> 具体的なサイト作りに向けた画面設計、情報構造に対する設計技法・手順について解説を行ないます。		提出課題
<b>第10週：サイト詳細画面設計と検証 画面設計</b> 情報構造の設計において、最終段階として、更に詳細な調整についての実施方法、事例紹介を実施いたします。		提出課題
<b>第11週：サイトの効果検証</b> Webサイトが完成した後の、運営・効果検証の段階と手法について解説を行ないます。		提出課題
<b>第12週：評価演習</b> 現存するWebサイトのユーザビリティ評価を実施します。ここではグループワークを主体とし、各人が一人の専門家として様々な視点で評価を行ないます。		提出課題
<b>第13週：評価演習</b> 評価結果を元に、発表会に向けた準備を行ないます。発表はグループワークとし、それぞれのグループ内で、分担された担当に取り組みます。		提出課題
<b>第14週：評価演習・発表会</b> 各グループごとに発表を行ないます。これらの中で、各グループ間でのディスカッションを実施します。		提出課題
<b>第15週：授業全体の復習とまとめ</b> 本授業全体の復習に取り組みます。		提出課題
<b>第16週：期末試験</b>		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目		
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	人が戸惑わない、使ってもらえるWebサイト設計ができる
<b>【知識・理解】</b>	Webサイトの利用者の行動に対する心理やきっかけに対する知識
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	Webサイト分析、グループワーク
<b>【思考・判断・創造】</b>	人を動かすきっかけや心理を考察できる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		15点	10点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		15点	10点	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		15点	10点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		15点	10点	
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	レポートの提出、レポートの記載内容
発表・その他 (無形成果)	課題やワークへの取り組み